

15

陸の豊かさも
守ろう

城山中学校

3年

R5.7.12～7.20

国語

人間と自然の関わりについて自分の考えを書こう

ねらい

筆者の「生物の絶滅は不可逆的である。」という主張に対して、身近な具体例を探しながら、生物の絶滅が直接的でなく間接的にも人類の発展に影響しうる可能性があることの根拠を明確にして記述することができる。

日程と内容

第1時 本文の構成と主な筆者の主張、学習計画の確認を行う。

第2時 筆者の主張とそれについての根拠となる部分についての読み取りをする。

第3時 筆者の主張に対する反論の読み取り。反論に対する自分の考えを形成する。

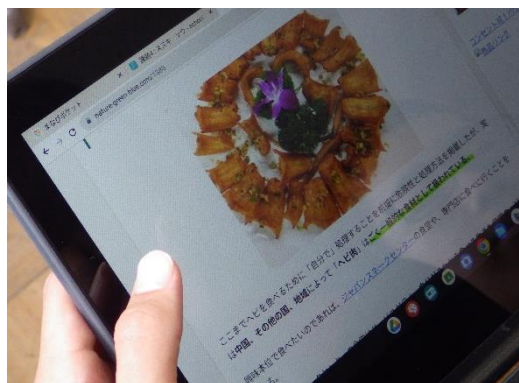
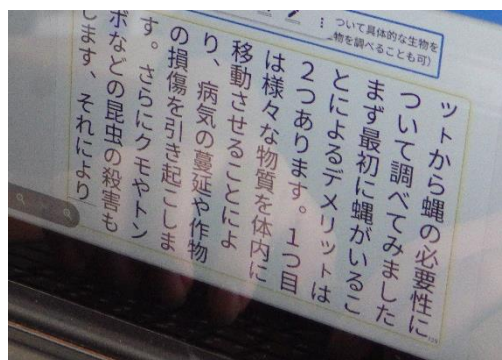
第4時 絶滅しても問題なさそうな生物の存在意義や人間への恩恵を間接的な視点からも捉えて記述する。

現在、確認されている生物の数

213万1,499種

確認されていない物も含めると

300万～5000万種



成果と課題

身近な生物（生徒にとってあまり好まれない生物など）を例に挙げ生態系の維持が人間の生活に間接的にも恩恵をもたらしてくることに気づかせることができた。また、現代の絶滅が人間の手によって引き起こされていることが多いことも押さえたため、環境や生物保護の意識をもたせることができた。

生物の必要性についての記述だったため生物学的な視点に絞れず、宗教的、信仰的な視点で記述をしてしまった生徒がいたため、課題設定の方法などを検討しなければならないと感じた。

